多様な主体による地域課題の解決を促す

プラットフォームの運営・構築手法に関する研究

- 代表 卯月 盛夫（早稲田大学社会科学部教授）
委員 朝比奈ゆり（東京ボランティア・市民活動センター専門員）
委員 市川 徹（(株)世田谷社代表取締役）
委員 大屋みのり（(公財)練馬区都市整備公社職員）
委員 角屋 ゆず（(一財)世田谷トラストまちづくり職員）
委員 駒井康一郎（(公財)練馬区都市整備公社職員）
委員 杉崎 和久（法政大学法学部教授）
委員 土井 良浩（弘前大学大学院地域社会研究科准教授）
委員 中島 学（早稲田大学大学院社会科学研究科修士課程）
委員 肥山 達也（横浜市文化観光局創造都市推進部創造都市推進課係長）
委員 深江多美子（まちづくりアドバイザー）
委員 藤倉 智弘（草加市立市民活動センター所長）

〔 研究報告要旨 〕

近年、地域課題が多様化複雑化する中で、その解決のためには、多様な主体の連携が必要であると言われている。そこで本研究では、地域課題の解決に取り組んでいる団体とその先進事例を調査し、今後多様な主体の連携の場であるプラットフォームをどのように運営・構築していくべきかを考察することを目的とする。

具体的な調査は、全国の先進的な市民活動支援組織、市民財団、地域金融機関、地域型クラウドファンディング等19カ所に対するヒアリングと1都3県の社会福祉協議会等359カ所へのアンケートを行った。以下その知見を記す。

まず、地域課題解決のプラットフォームは、4つのフェーズによって構築される。フェーズ1は、地域の課題を顕在化させる段階である。日常的な相談窓口やシンポジウム、ワークショップを通じて抽出された問題やニーズを、地域の社会的課題として文章化や視覚化をはかり、まず認識することが重要である。フェーズ2は、その地域課題と解決の方向を多くの市民が共有化する中で、解決に必要な関係者を明らかにする段階である。フェーズ3は、その関係者による会議体を構築し、協議を通じてリソースの獲得や事業手法を明確にする段階である。特に、資金調達に資する関係者の参画が必須である。フェーズ4は、それまでに検討された仕組や事業内容を具体的に事業化、実践する段階である。

しかし、この4つのフェーズ全体の運営を担う団体は非常に少なく、既存の団体組織はどこかのフェーズに強みがあるが、一方他のフェーズには弱みがある。各団体組織は4つのフェーズの充実のために、まず社会に開かれた拠点としての「公共空間」を持つべきである。同時に、この4つのフェーズすべてをマネジメントできる人を、私達は「プラットフォーム・マネージャー」と呼ぶが、地域課題解決のためには、その発掘と育成が急務である。今後増大する地域課題の解決に際して、「プラットフォーム・マネージャー」が様々な団体と個人を連携する柔軟で水平なプラットフォームを構築することが望まれる。